

報告

第18回福岡県作業療法学会

介護老人保健施設松恒園 通所リハビリテーション 玉野 和男

1. はじめに

2014年2月15日・16日の2日間、北九州国際会議場(写真1)にて「今、伝えたい作業療法 ～広く、深く、そして一歩前へ～」をテーマに、第18回福岡県作業療法学会が開催された。前日まで大雪の影響で交通機関が乱れ正常な開催が心配されたが、当日は天候が回復し、2日間で参加者は413名(実人数233名)、市民公開講座は120名が参加された。



写真1 学会会場

2. 講演について

基調講演では、「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」をテーマに、大分県で活躍されている佐藤孝臣氏(写真2)にご講演いただいた。すでにモデル事業として実施されている地域ケア会議に参加され、その中で「生活」という観点から他職種に対して助言できる作業療法士の育成が急務であることについて熱く語られた。地域の期待に応えるため、作業療法士の存在意義を示していく必要があると感じさせられた。



写真2 基調講演

教育セミナーでは、日本作業療法士協会や厚生労働省が重要課題として取り組み、活躍が期待されている「生活行為向上マネジメント」、「認知症初期集中

支援チーム」、「特別支援教育」の3テーマについて、第一線で活躍されている作業療法士の方にご講演いただいた。どれも作業療法士として興味ある内容であり、多くの会員にご参加いただいた。

また今学会はこれからの作業療法を担っていく若い作業療法士に、未来講演として発達・精神・地域の3分野で講演していただいた。若い参加者にとって、良い刺激になったのではないかと思う。

一般演題(口述・ポスター)では47演題の発表数が集まった。どの会場も質疑応答で熱気をおびていた。ここ数年演題数は増えており、会員の自己研鑽の意識の高まりを感じた。

そして市民公開講座は、鈴木ひとみ氏をお招きして「車椅子からの出発(たびだち)～絶望の淵から這い上がるまでの軌跡～」をテーマにご講演いただいた。ファッションモデルとして活躍中交通事故で頸髄損傷となり、車椅子での生活が余儀なくされた。その中でいかにして立ち直り、現在まで至ったのかを語っていただいた。

その他にも、ブース企画として「作業療法紹介」「リハビリ・進路相談」「福祉機器紹介、障害・高齢者体験」「ロボット展示・体験」「作品展示」、障がいのある方々が作った手作り弁当やお菓子・小物の販売等を実施した。それぞれのブースで会員や一般市民の交流が展開されていた。

3. おわりに

今学会では、地域で活躍する作業療法士育成の重要性、作業療法の認知度を上げていくため一層の努力が必要だということを痛感する機会となった。

企画・運営に携わらせていただいた者として、大きなトラブルもなく盛況の内に会を終えることができたことはとても嬉しく、協力していただいた方々に本当に感謝したいと思う。

介護老人保健施設松恒園

通所リハビリテーション

〒800-0114 福岡県北九州市門司区吉志 5-5-10